一橋大学大学院―公共政策セミナー―

第 3 回講義：内野　逸勢氏

「我が国の官民連携ファイナンスの動向と今後の方向性について」

~官民連携ファイナンスが機能するために何が必要か~

(株)大和総研／産学連携室

講義日（場所）	講師	講義概要／質疑応答
5/12(木)16:15（神田・学術総合センター: 4 F 第 5 講義室）	金融公共コンサルティング部・副部長 内野逸勢氏	＜講義概要＞ ・ 「官民連携ファイナンス」をテーマに、レベニュー債の実現可能性、行政キャッシュフロー計算書の仕組み、官民連携ファイナンスとしてみた PFI 事業、具体的な事例、など広範に解説。 ・ 本講座後半で予定のプレゼンテーション課題(6/23)は、官民連携で行われている事業と事業形態を列挙し、官民で事業運営される理由、その際の問題点、公的セクターの資金調達の主要な問題点を挙げよ、となっている。 ＜主な質疑応答＞ (Q)講義で説明された F 市・民間事業会社の PFI 事業で、なぜ民間事業会社の甘い需要予測を採用したのか？ (A) 本来、事業の運営主体が需要予測をすべきが、受託者となる民間事業会社が主導して失敗してしまった。（民間事業会社としては大きな箱を作りたい）本来、運営主体が企画段階から入り需要予測をするが、本件では発注者である F 市が企画を立ててしまった。 (Q)PFI 事業で、海外の成功事例はあるのか？ (A)英国ロンドンにおける空港運営会社、豪州における空港・インフラなどがある。PFI が成功するためには、公共事業において経済性を追求できる成長性があるかがポイントとなる。 (Q)コンセッションを成功させるためには？ (A)長期的なキャッシュフローをどのように考えるかである。どうリスクを見込んで料金設定を出来るかがポイント。長期にわたったプロジェクションが重要である。

以上